

アレルギー情報の共有化への取り組み



関西医科大学附属枚方病院 医療安全管理部

川瀬泰裕、宮崎浩彰、齋藤ひろみ、前田利治、平尾壽馬、森川美沙、岡崎和一、今村洋二

<背景と目的>

平成20年6月、患者が経口用セフェム系製剤にアレルギーがあることを申告していたにも関わらず、このアレルギー情報を本来登録すべき電子カルテの患者情報画面に入力せず経過記録にのみ記載した。このため、アレルギー情報が共有されず禁忌薬が投与されアナフィラキシーショックに至った事例を経験した。この事故を受け、アレルギー情報の共有化による事故の再発防止に取り組んだ

<取り組み>

①アレルギー情報の取り扱いについて、誰がどの時点でどの程度のアレルギー情報を登録するのか明確なルールがなかったことから、初診時の問診表をもとに患者の申告どおりに医療スタッフが直ちに入力し、担当医が適切に修正する運用に変更した。

②アレルギー情報が登録されている場合に表示する「アレルギー」の文字サイズや配色を変更して視認性を高めた。さらに、未登録の場合はアレルギー歴なしとの区別が不明瞭であったため、新たに「アレルギー未登録」と表示し入力を促すようにした。

<アレルギー情報を確実に登録する手順の確立>

【登録の流れ】

1. 外来初診時に、「問診票 or 紹介状」のアレルギー情報を確認する。
2. 初診受付スタッフが、申告どおりに患者プロフィール画面にアレルギー情報を入力する。
3. 初診担当医師が、入力されたアレルギー情報を必要に応じて修正する。
4. すべての職員は、新たに発生または発覚したアレルギー情報を追加する。

【登録のポイント】

知り得たアレルギー情報は、その信憑性や重要度により取捨選択することなく登録することを徹底した。

<患者プロフィール・アレルギー入力画面の変更>

【変更点】
「アレルギーなし」の項目を追加し、未入力との区別を明確にした。

薬物アレルギー
 なし
食物アレルギー
 なし

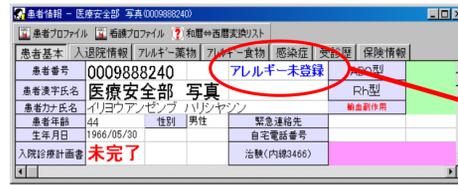
<患者情報画面のアレルギー表示の変更>



タイガースカラーで視認性up

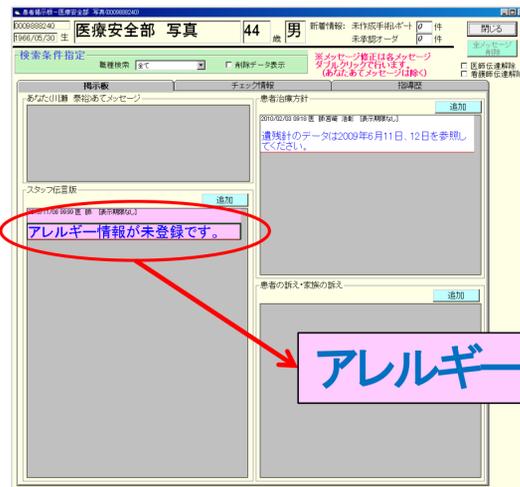
アレルギー

<アレルギー未登録への対策>



患者情報画面に新たに表示

アレルギー未登録



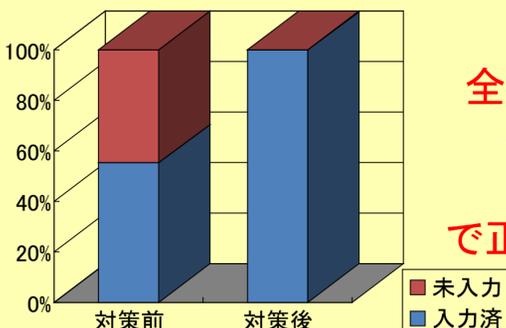
患者選択した時に
最初に表示される
＜掲示板＞
に表示し、入力を促した。

アレルギー情報が未登録です。

③ 継続的にアレルギーに関する講習会を開催し、新たな運用を周知した。

④ アナフィラキシー発生時の対応を強化するため、BLS講習会の定期的な開催や救急カードの標準化を行った。

<対策前後のアレルギー情報の登録状況>



対策後は、
全診療科の初診患者
4367名中4361名
(99.9%)
で正しく登録されていた。

<考察>

対策後に、アレルギー既往がわかっている禁忌薬の誤投与事故は発生していない。これらの事故を防止するには、アレルギー情報に対する取り扱いとその重要性を院内で周知徹底し、アレルギー情報を共有することが不可欠であると考えられた。